

のみし
能美市商工女性まちづくり研究会（石川県能美市）

能美市商工女性
まちづくり研究会
会長

移動販売で育てる生きがいと 支え合いの地域づくり

北野 ゆかり



1. 能美市の概要

能美市（のみし）は、石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、白山連峰に連なる緑豊かな丘陵、一級河川の手取川、日本海に抱かれる豊かな自然環境に恵まれた地です。面積は84.14㎢でコンパクトですが、美しい風景が身近にあり、四季を通じて住む者の心を癒してくれます。



白山を背景に広がるクリムゾンクローバー畑

また、能美市は華やかで繊細な色絵が特徴の「九谷焼」の最大の産地です。毎年5月3日～5日には九谷茶碗まつりが開催され、約20万人が訪れています。円谷プロダクション公認の「九谷焼ウルトラマンシリーズ」の絵付け体験は、家族連れをはじめ大変好評です。



大人気の絵付け体験

豊かな自然環境を活かした農産物もたくさんあります。中でも「加賀丸いも」の商標で知られている丸いもは、平成28年に地理的表示保護制度（GI）に登録されました。市内にはこのような特産物を使用した加工食品、菓子、酒類などが多く販売されています。

2. 活動開始の背景・経緯

能美市商工女性まちづくり研究会

は、平成24年2月に「能美市商工女性部」の「まちづくり研究会」として発足しました。きっかけは、市民の声です。時代の変遷とともに「近所の八百屋がなくなった」、「車や自転車に乗らなくなったら買い物づらい」、「ほかにも能美市内で買い物に困っている地域がたくさんある」といった声がよく聞こえるようになりました。それを聞いた商工会女性部の執行部会メンバーの間で、「私たちにできることはないか」という意識が少しずつ芽生え始めました。軽トラックを使って「市（いち）」を行っている事例が県外にあることを知った時に、「軽トラックを使って、店が無い地域で移動販売する」ことを思いつきました。そこでまず、能美市社会福祉協議会と連携し、買い物に困っている地域住民のニーズを探るためのヒアリング調査を1年かけて行いました。

現地調査では、研究会メンバー3名ずつでグループを組み、地図で確認した商店が無い地域を回り、買い物で困っていることや欲しい商品についてお聞きしましたが、買い物支援に対するニーズを知るだけでなく、家族の状況なども聞くことができました。

この調査で気づいたのは、お年寄りや買い物に不便さを感じているだけではなく、話し相手も求めているのではないかとということでした。そこで研究会のメンバーは、「傾聴」の研修を受けて、知識と手法を身につけました。この気づきは今も活動のベースとなっており、住民とのコミュニケーションを第一に各地を回っています。

3. 活動の広がり

訪問先の選定にあたり、まず町内会長や民生委員を中心に、町としての受け入れ態勢をまとめていただき、

町ぐるみで住民の合意が整った町を選定しています。販売中は各町の町会長や民生委員も立ち会ってくれます。また、雪の日には販売車が通れるように、各地で地元住民が事前に道路や駐車場の除雪をしてくれています。

地元大学生の卒業論文のための取材をきっかけに、若い人たちの支援もあります。市内にある北陸先端科学技術大学院大学の研究生たちとは、活動2年目からずっと交流が続いているほか、県内のその他の大学生も同行取材に来てくれます。

また、「能美市商店街連盟」が発行する「のみカード」は、買い物だけでなく、市の健診を受診したりするとポイントが付与される、全国でも珍しい機能を持っています。このポイントカードを移動販売に導入したことにより、これまで貯まったポイントを利用する店がなくて無駄にしていた方たちから大変喜ばれています。



ポイントカード制度を導入

4. 継続性

販売車のほかにもう一台伴走車を購入し、商品が品切れすることのないようにしました。また今年は冷蔵庫を搭載し、注文に基づいて刺身を届けることも可能になりました。



移動販売車と伴走車

活動に賛同してくれる賛助会員

(出資者)を増やす努力も続けています。燃料費や保険料など、この活動に必要な経費は、賛助会員からの会費で支えてもらっています。そのため、定期総会のほか、チラシやニュースレターの発行、活動報告会、同行ツアーを開催し、常に新たな賛助会員を増やすことに力を入れています。年会費は3千円以上としており、人によっては5千円、1万円、10万円と出してくれます。

賛助会員数は110名を超えていますが、市民、企業、市の職員、市議や県議、国会議員、警察署長など、多彩な顔ぶれです。市内のすべての郵便局の局長も賛助会員です。

5. 地域資源の活用

現地調査の際、山間地の高齢者は、獣害のため畑で作物を作ることから離れつつある現状を知りました。そこで、販売と同時に、野菜や花、山菜などの買い取りも始めました。高齢者は販売を意識したとてもきれいな品物を提供してくれます。自分が作った野菜や花が、後から回る他の地域で売られることで、高齢者の生きがいがづくりに貢献しています。買い取ったものは、別の地域で販売していますが、大変好評で、ほとんど完売しています。



高齢者と一緒に畑で大根を収穫し、
買い取る様子

6. 創意工夫

売れ残りによる赤字を発生させないために、仕入れについていくつかの工夫をしています。まず仕入れをすべて、趣旨に賛同してくれる市内の商工会加盟店舗で行い、地域貢献として協力してもらっています。また、弁当、総菜、もち菓子などは当日の朝に作り、その他の生鮮食品も当日の朝に仕入れたものを提供。単身や2人暮らしの高齢者のために、食べきりの少量パックにしてもらっ

ています。売れ残りは返品する条件で仕入れ、さらに各仕入先からの販売手数料も受け取り、それを活動費に充てています。



商品はすべて食べきりサイズ

販売だけが目的ではなく、地域づくりとして、地域内・地域間の交流を促すことも大切にしています。そのため、個別配達ではなく、公民館などの住民が集まりやすい場所に販売車を停車し、引きこもりがちな高齢者たちの健康維持や、住民同士の交流や互いの見守りが活発になるよう仕掛けています。

さらに、飴やお茶をふるまい、会話を楽しんでもらう工夫もしています。オシャレをして買い物に来てくれる人も多くなりました。

7. 成果

「無理せず、すぐにできることを続ける」をモットーに、まず自分たちが楽しく活動を行うことを重視してきました。いつも笑顔で住民との交流を続けることで、自分も活動に参加したい、支え合いたいと考える人たちが生まれました。今では商工会の会員以外の方も、販売ボランティアとして一緒に活動しています。

また、移動販売をきっかけに、これまで以上に住民の交流が広がっています。視覚に障害のある住民の送迎を引き受けてくれる住民や、当日留守の住民に頼まれたものを、代わりに買い物する住民が現れました。



坂の下に住む常連さんのお出迎え

移動販売車がその場を離れても、住民同士がその場に就いていつまでも会話を楽しむ姿も見られます。

8. 課題と展望

年々高齢化が進行するなか、この活動を市内全域に、次々に広げていくことが必要だと感じています。

そこで、これまでは、蓄積したノウハウと車2台を貸与し、当研究会の活動日以外の時や、訪問していない地域で移動販売をしてくれる、第2、第3のグループの募集を続けてきました。ところが、見学はあるものの、新たに名乗りを上げるグループはありませんでした。

そのため、今年行った活動報告会では、「どうすれば第2、第3のグループが見つかるか」というテーマを参加者に投げかけ、グループに分かれて話し合ってもらい、出た意見を聞かせてもらう意見交換会を行うことにしました。

学生や退職後の男性へのアプローチをするという案もありましたが、多く出た意見としては、当研究会の人数をさらに増やし、いずれ研究会を2分割、3分割したほうが、ノウハウが引き継がれやすい、ということでした。

今後、私たちはその方向で、移動販売に参加してくれるメンバーをどんどん増やしていきます。



活動報告会・意見交換会の様子

そして、いずれは市内全域に、住民同士の交流と支え合いを生み出す、地域づくりとしての移動販売が広がることを目指していきます。



移動販売車とその周りに集まる地域の人々